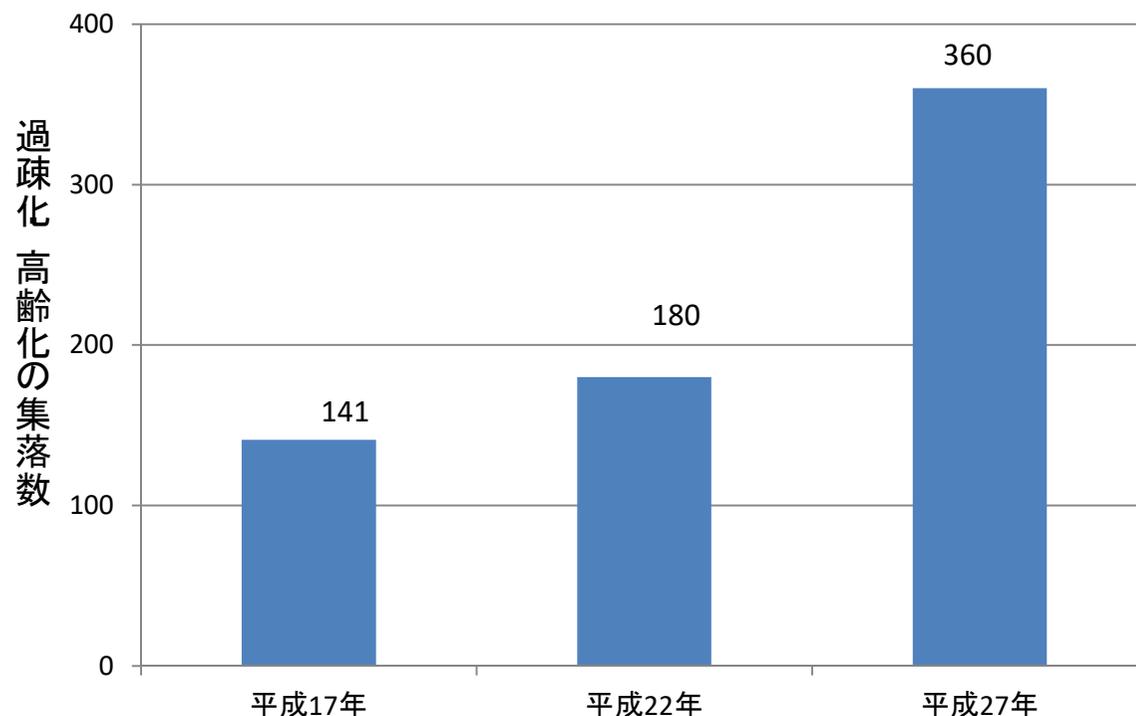


京都府の農村の 現状について

府内 過疎化・高齢化集落数の推移

平成22年から27年の5年間で
府内過疎高齢化集落は倍増



【地域別内訳】

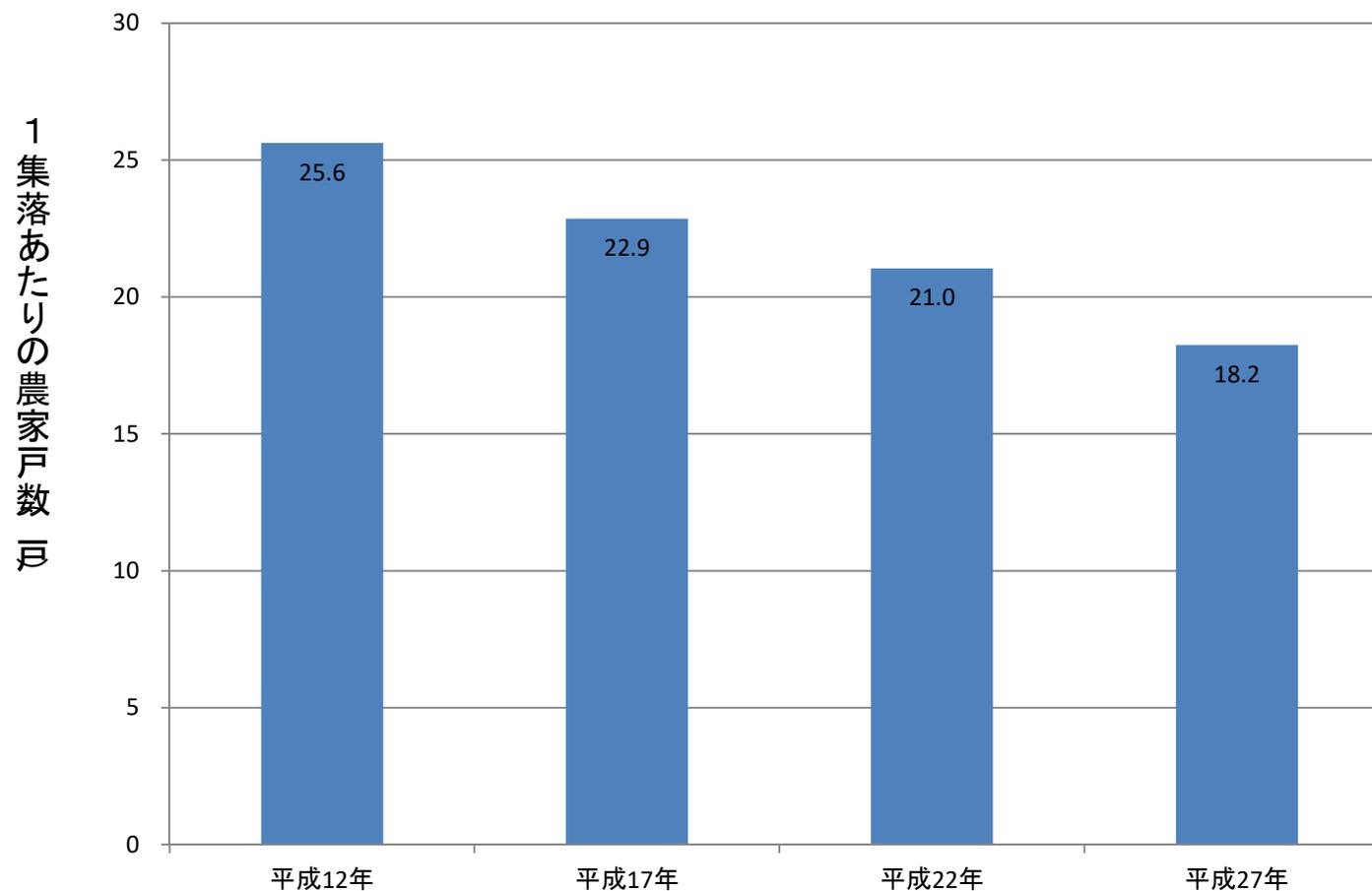
丹後	63 /	335集落
中丹	172 /	514集落
南丹	65 /	337集落
山城	21 /	242集落
京都・乙訓	39 /	256集落
京都府計	360 /	1,684集落

過疎高齢化集落: 65歳以上人口の比率が50%以上の集落

※集落数は、農林業センサス上の「農業集落」により集計
高齢化率は、国勢調査(小地域集計)に基づき算出

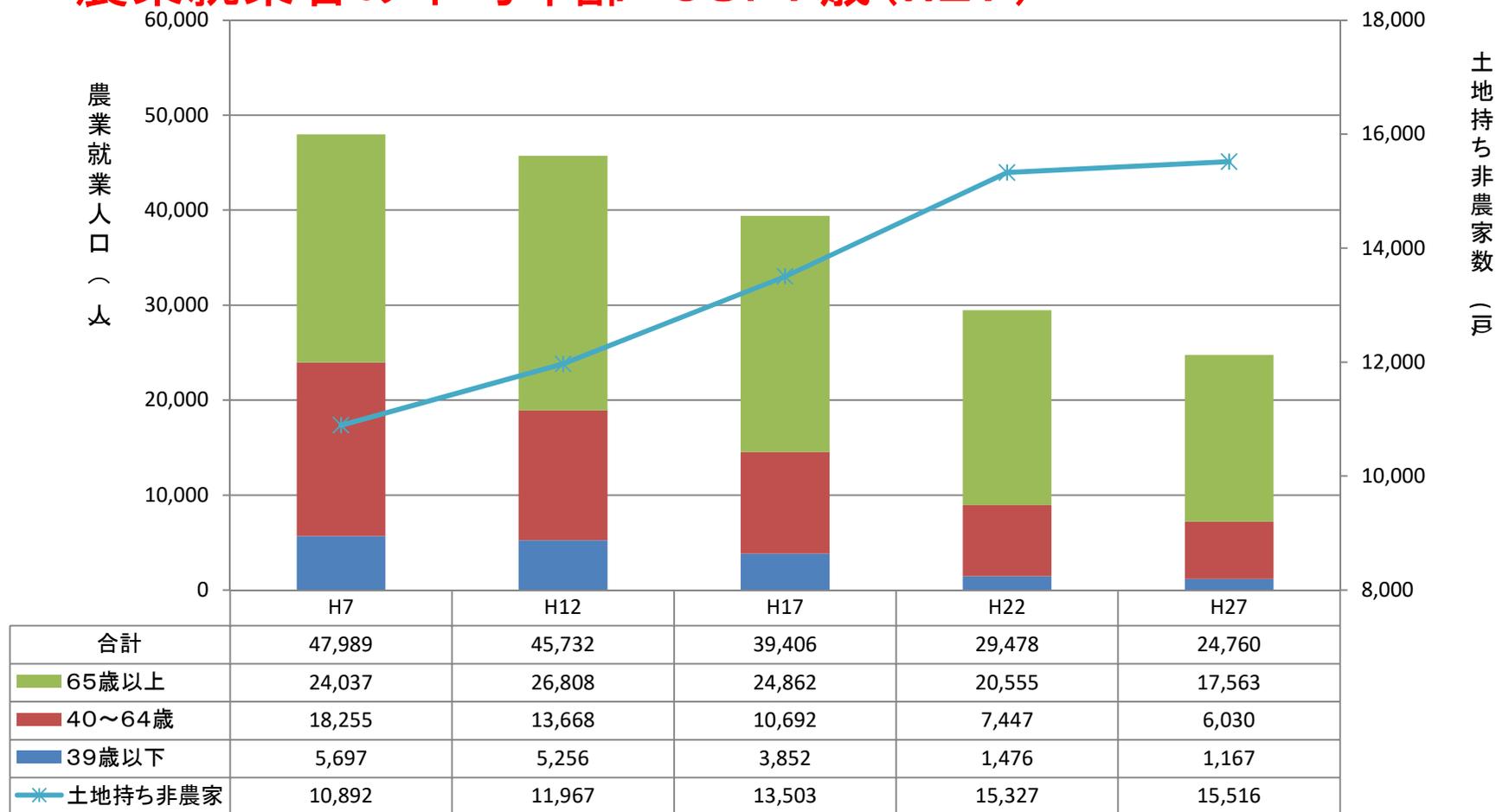
1集落あたりの農家戸数

1集落あたりの農家戸数は年々減少



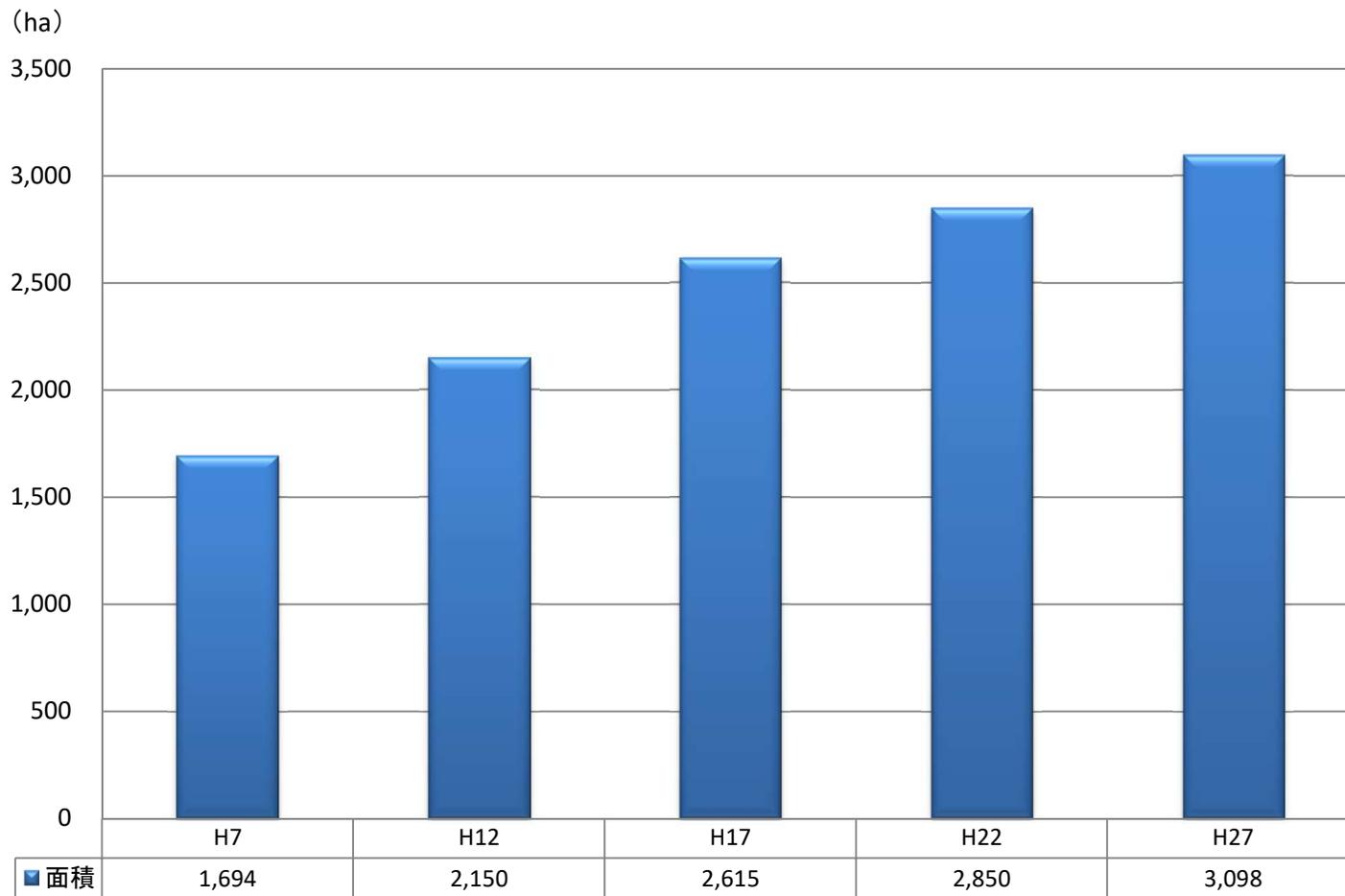
農業就業人口及び土地持ち非農家の推移

- ・H7からH27の20年間で、農業就業人口はほぼ半減
- ・65歳以上の人数は、50% (H7) から71% (H27) に増加
- ・農業就業者の平均年齢 68.7歳 (H27)



府内 耕作放棄地面積の推移

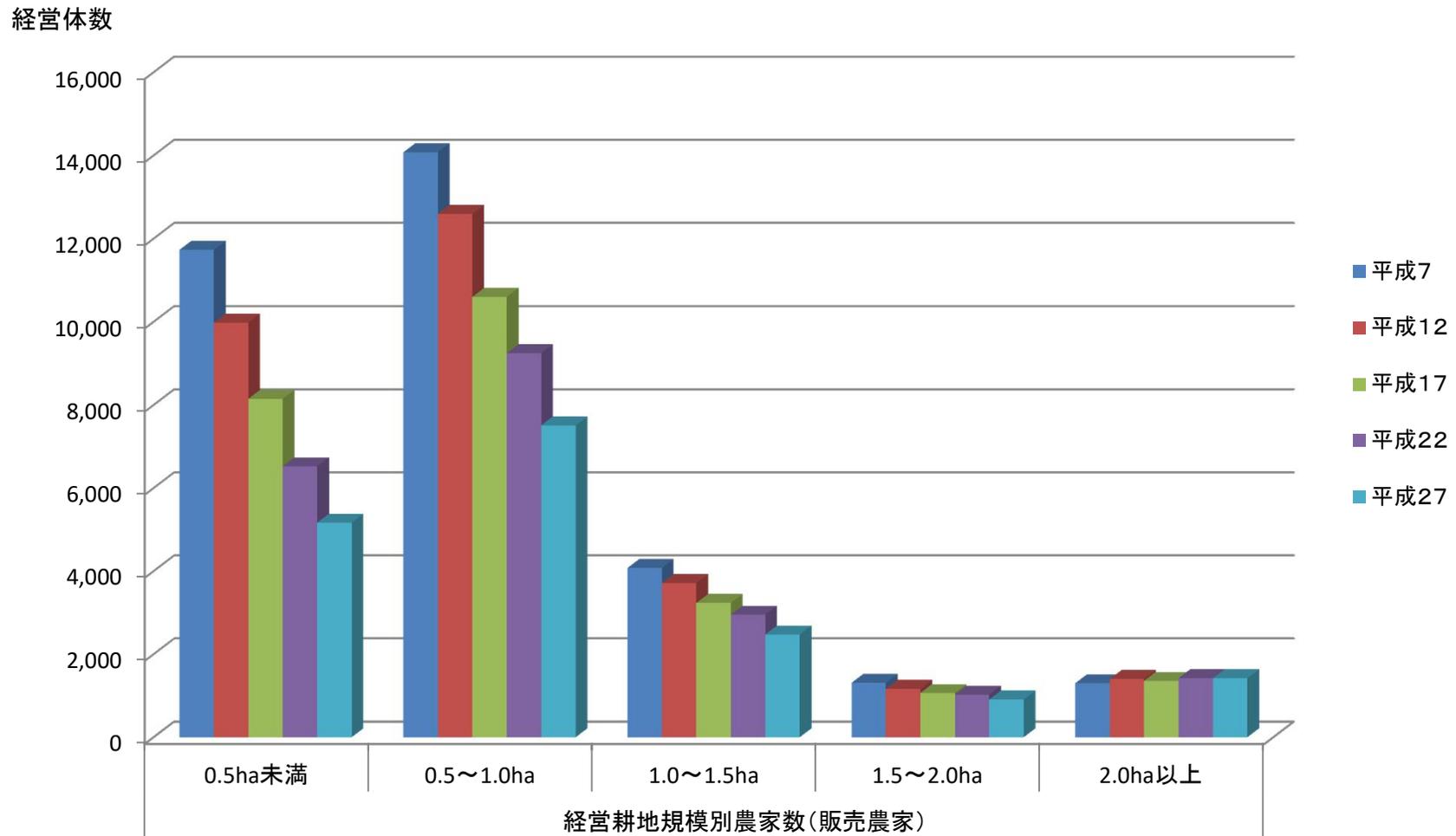
耕作放棄地は年々増加している



出典：農林業センサス

府内 経営体あたりの耕地面積の推移

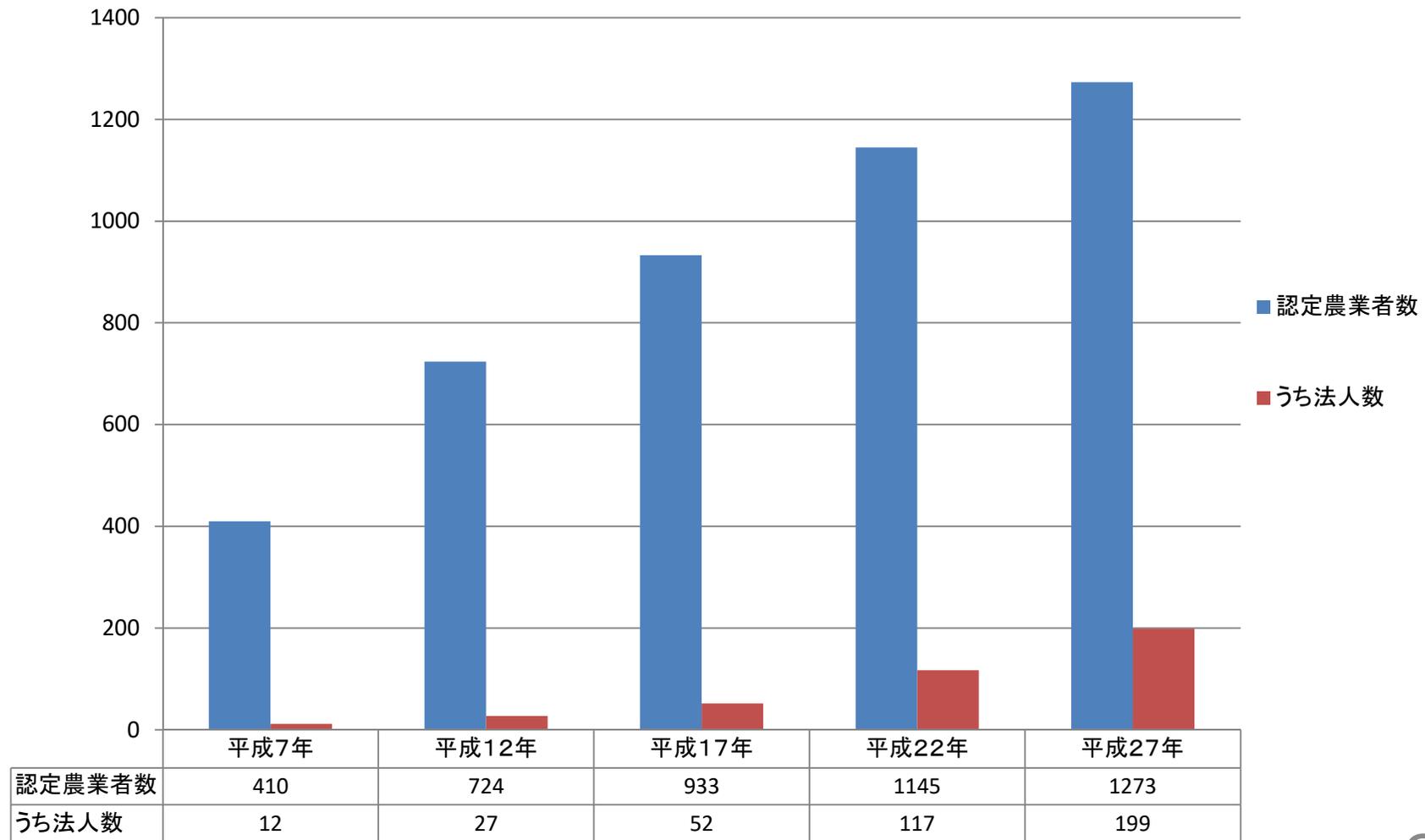
1ha未満の経営体数は大幅に減少しているが、
2ha以上の経営体数は微増



府内 認定農業者数の推移

認定農業者数、法人数ともに年々増加

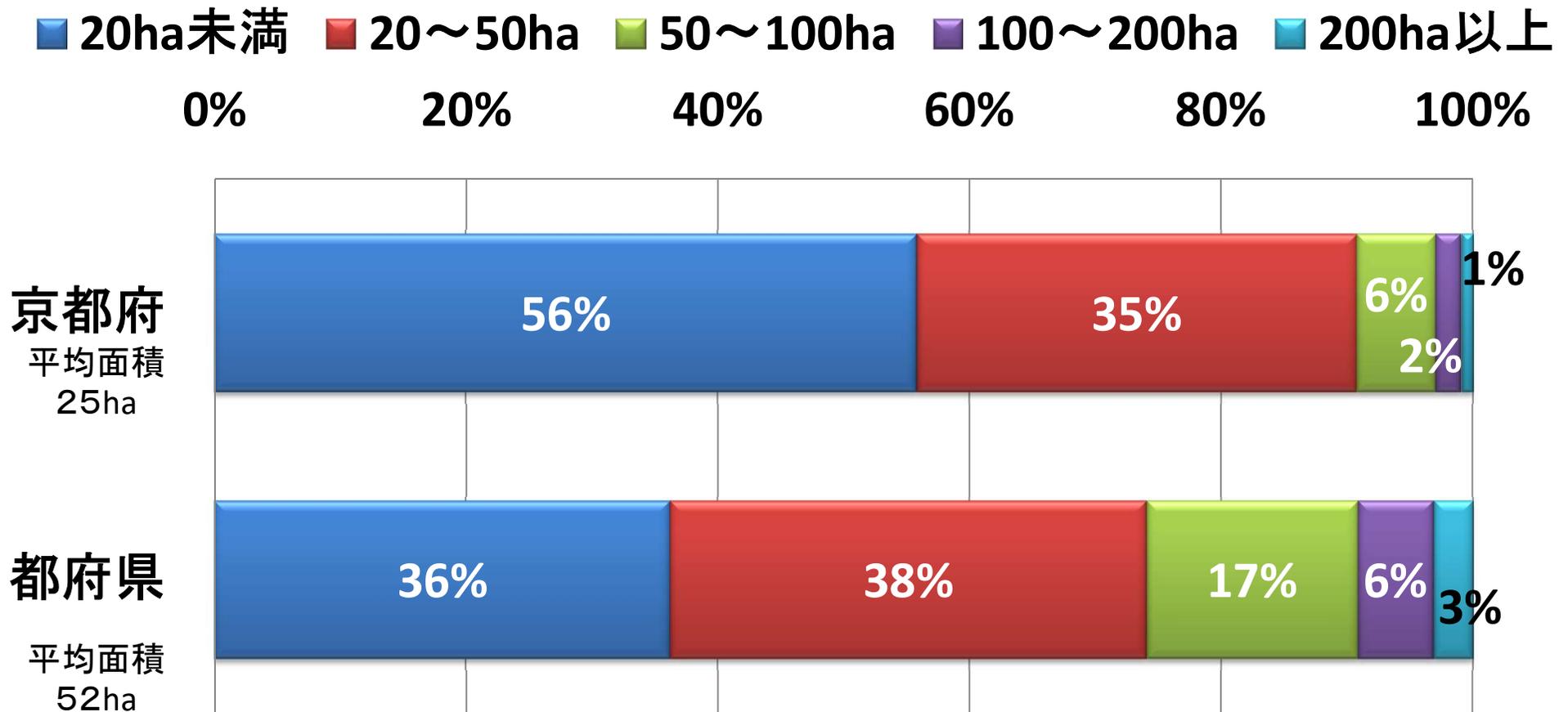
人・組織



出典：農林水産省経営局

多面的機能支払交付金 活動組織の取組面積の規模(H27)

- ・半数以上の組織が20ha未満であり、活動規模が小さい
- ・平均面積は都府県平均の半分となっている



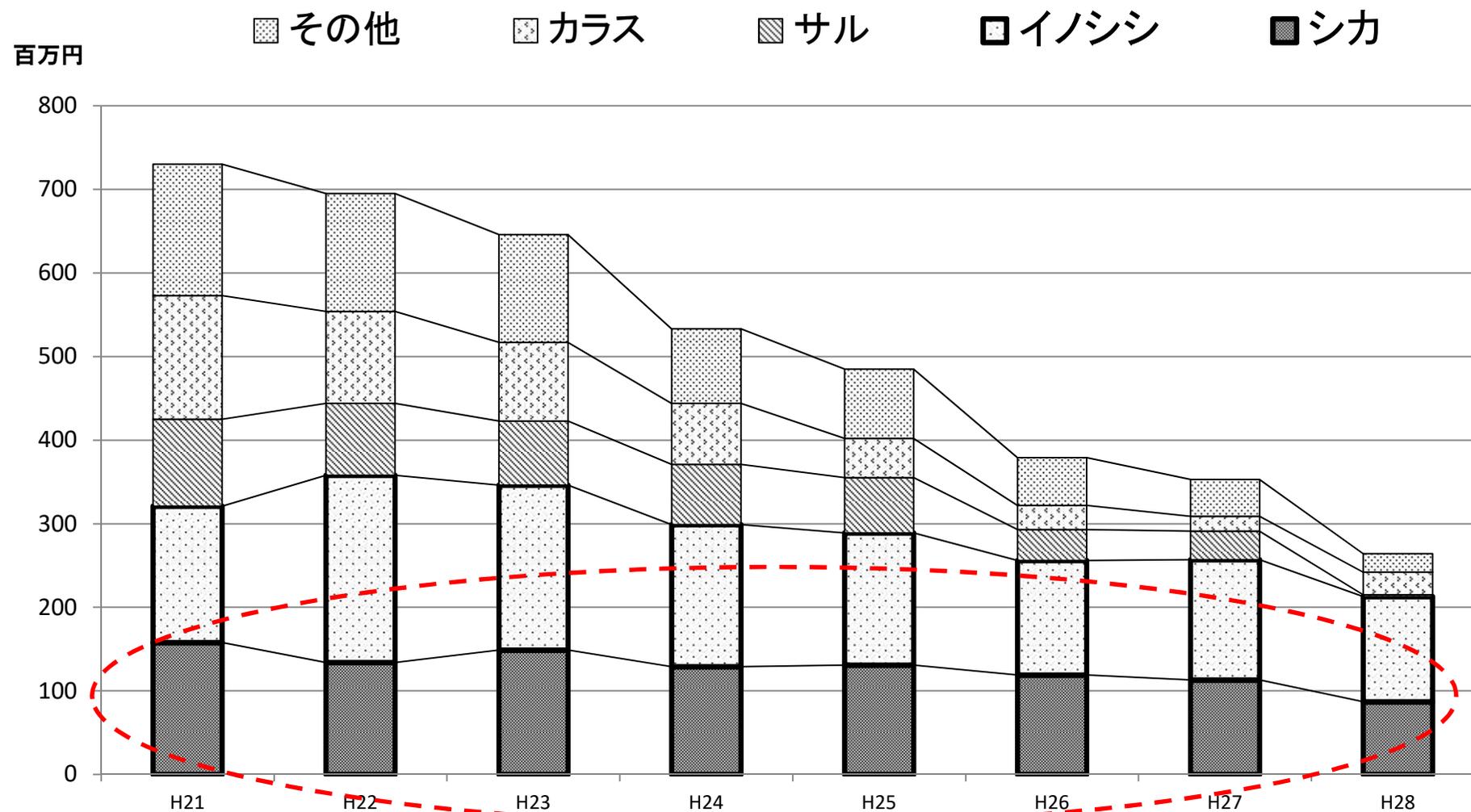
野生動物による農作物被害金額の推移

被害金額は、対策の効果で年々減少しているが、約3億で、依然として深刻な状況



鳥獣別の被害金額の状況

イノシシとニホンジカによる被害は、ほぼ横ばいで、全体の7割を占めており、農村地域では被害減少の実感が伴わない



被害防除対策

恒久型防護柵の整備延長(累積)は約2,800kmとなり、効果を持続させるための維持管理が課題

